

(様式3)

農業研究成果情報

No. 754 (平成 28 年 5 月) 分類コード 02-10 熊本県農林水産部

カキ「太秋」の袋掛けによる雲形状汚損発生軽減効果

カキ「太秋」の雲形状汚損は、樹冠上部の果実に発生が多い。また、夏季(7月下旬～8月上旬頃)の袋掛けやカサ掛けで軽減でき、なかでも袋掛けの効果が高い。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室(担当者:平本 恵)

研究のねらい

「太秋」の汚損は、8月下旬から発生する条紋由来の汚損が知られているが、着色期に陽光面が黒く変色する雲形状汚損もみられ、商品化率を下げる一因となっている。この雲形状汚損は、カキ「西条」において、夏季の日焼けとその後、果皮表面が濡れた状態が続くことで発生しやすいことが明らかになっている。

そこで、「太秋」の雲形状汚損は、一般に樹冠外周部に発生がみられることから、その発生の実態と夏季の袋掛けやカサ掛けによる軽減効果を明らかにする。

研究の成果

1. 雲形状汚損の果実は、樹冠下部に比べ上部の発生が多い(図1)。
2. 雲形状汚損は、袋掛けやカサ掛けによって軽減し、なかでも袋掛けの軽減効果が高い(図2、3)。
3. カサ掛けの10月下旬(10月20～21日)除去(カサ除去)は、雲形状汚損の発生割合が袋掛けやカサ掛けに比べ高い傾向となる(図2)。
4. 果実品質に処理間の差はない(データ略)。

普及上の留意点

1. この試験は、立木で行った結果である。
2. 袋掛けは「エース 95T V字(太秋用白袋)」、カサ掛けはポリ傘(22×22 cm、福友産業)を用いた。

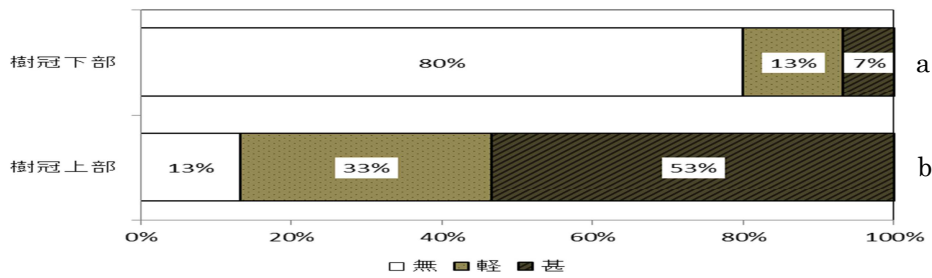


図1 カキ「太秋」の樹冠外周部の樹冠上部と下部での雲形状汚損発生割合(2014年)

注1)雲形状の程度：無、軽、甚

注2)着果部位を樹冠赤道部を境に上部と下部に区分

注3)異符号間は Ryan 法により 5%水準で発生割合(軽+甚)に有意差あり

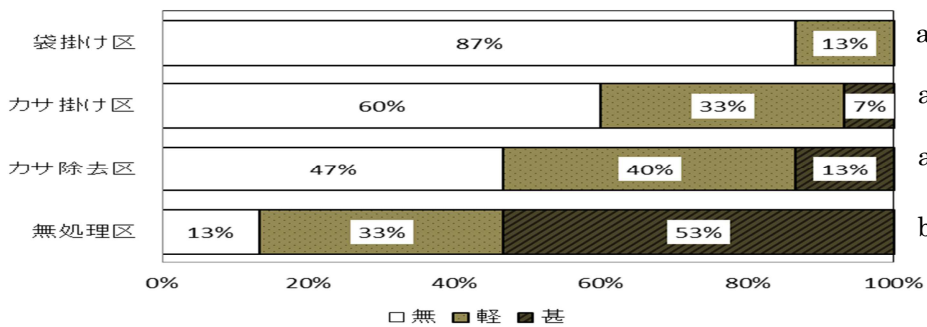


図2 カキ「太秋」の被覆資材別による雲形状汚損の発生割合(2014年)

注1)雲形状の程度：無、軽、甚

注2)袋掛けおよびカサ掛け：8月4日、カサ除去：10月20～21日、収穫日：11月21日

注3)異符号間は Ryan 法により 5%水準で発生割合(軽+甚)に有意差あり

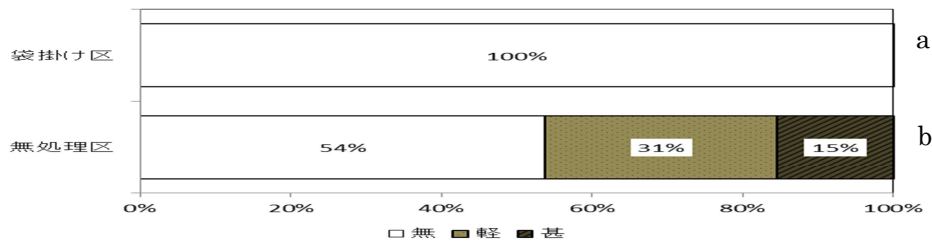


図3 カキ「太秋」の袋掛けの有無による雲形状汚損の発生割合(2015年)

注1)雲形状の程度：無、軽、甚

注2)袋掛け：8月3日、収穫日：11月24日

注3)異符号間は Ryan 法により 5%水準で発生割合(軽+甚)に有意差あり

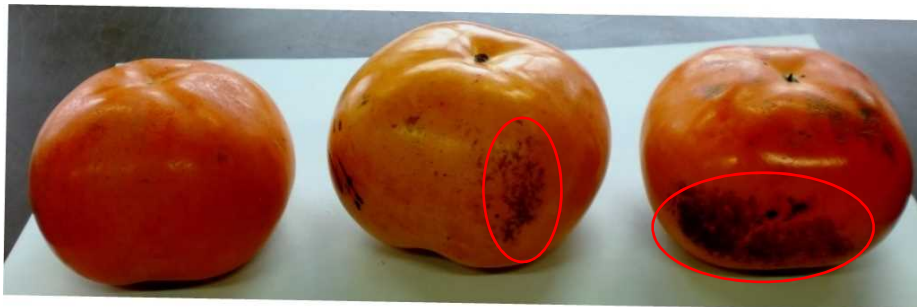


写真 雲形状汚損の程度(左から「無」、「軽」、「甚」それぞれ囲った部分)